

**JFMA**

公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会

**2024 年度 事業報告書**

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

2025 年 5 月 22 日



## はじめに

本資料は、公益社団法人 日本ファシリティマネジメント協会の 2024 年 4 月 1 日より 2025 年 3 月 31 日までの 2024 年度（令和 6 年度）事業実施結果について報告するものです。

当協会は、1987 年（昭和 62 年）設立後、1996 年（平成 8 年）に社団法人化、2012 年（平成 24 年）1 月に公益社団法人として認定され、現在にいたっております。

2019 年 6 月の総会で定款変更を行い現在は「①資格認定、②教育研修及び通信教育、③表彰、④調査研究、⑤ISO 関連及び日本産業規格（JIS）関連、⑥広報、⑦交流、⑧フォーラム及びコンテスト等関連、⑨その他」の 9 事業を「公益目的事業」として定めております。

当協会の 2024 年度の事業活動は、資格認定事業において、認定ファシリティマネジャー資格試験と Web 講座による更新講習 D 方式などオンライン型が定着しました。資格試験では受験者数 920 名（前年度から 164 名増）で、新たに 410 名の合格者を輩出し、更新講習では 1,103 名（前年度から 23 名増）が登録を行いました。特に、更新講習 D 方式は、講習内容と Web 形式の両面から極めて高い評価を得ることができました。2025 年 3 月末現在 6,794 名が資格者として登録されています。

理事会はオンラインだけでなく、2024 年 10 月 17 日には 2024 年度第 3 回理事会と法人会員パーティー（約 120 名参加）を対面で開催しました。その他の各委員会および調査研究部会も、対面型、ハイブリッド型などが増えてきました。

第 19 回日本ファシリティマネジメント大会（ファシリティマネジメントフォーラム 2025）は、「FM ネクストステージ～サステナビリティ・地方創生・成長」をテーマに、本年 2 月 1 日～28 日にオンデマンド配信として開催しました。基調講演として高村ゆかり氏（東京大学未来ビジョン研究センター教授）や 2 名の特別講演をはじめ、企画講演、シンポジウムや各種講演など約 70 番組の配信、さらにスポンサーステージでは 66 社が PR 動画配信やライブセミナーを行い、2,000 名を超える参加者の皆様が視聴しました。

2 月 25 日には JFMA 賞授賞式（18 組が受賞）、講演／対談及びネットワーキングパーティーを御茶ノ水ソラシティホールで開催しました。小室淑恵様（株式会社ワーク・ライフバランス代表取締役社長）の講演と小室氏と米倉会長の対談、その後のパーティともそれぞれ 200 名を超え、超満員の会場は熱気に包まれ、活発な交流が行われました。2 月 12 日には新たにカジュアルな交流イベントとして、コクヨ THE CAMPAS CORE（品川）で「ミライの働き方 みんなの座談会」を開催し、若年層も含め、さまざまな世代の方々が集いました。

年間を通じたセミナーは、従来からの超初級・初級 FM 関連や秋の 18 講座（調査研究部会発表）、財務評価セミナーなどの FM 初心者向けを中心としたライブやオンデマンド配信に加え、FM 進化論シンポジウム 2025「生成 AI が拓く新しいファシリティマネジメント」のハイブリッド開催ほかさまざまな切り口による FM 普及定着に向けた取り組みを行いました。

ISO 関連では、複数の国際会議にも参加（訪問やオンライン）する一方で、海外から気候変動への配慮も求められ、国内での「JIS Q 41001 追補版」としての準備を進めています。また、積極的に FM 導入を進めている企業に対し、FM の基本と JIS Q 41001 の経営手法を提供する「FM 優良企業研修」を開始しました。（2 社で実施）

2024 年度は、2023 年度第 4 回理事会で承認された事業計画で、重点活動方針（重要課題と注力事項）を明確にして、事業を推進してまいりました。特に、注力事項の柱として掲げた FM や資格の魅力度を高めるために、2025 年度から実施される資格（試験・登録）制度を大幅に見直しました。2025 年 8 月からの募集開始及び受験者増に向けた周知については、すでに開始しています。

収支面においては、人件費の増加傾向は続いておりますが、会員数や会費口数の増加や、資格の受験者や更新者増によって、前年度（約 620 万円の赤字）と比較して、約 760 万円強改善し、最終で約 143 万円の黒字を確保しました。来年度はコロナ禍での 2020 年度の試験中止による更新講習者の減少による収益減の懸念はありますが、改定される公益法人制度が目指しているサステナブルな非営利組織の実現に向けて、2024 年度はその足場固めができた 1 年でした。

以上

# 目次

## 《2024年度 事業報告》

I. 法人の概況	8
1. 設立年月日	
2. 定款に定める目的	
3. 定款に定める事業内容	
4. 所管官庁に関する事項	
5. 会員の状況	
6. 主たる事務所	
7. 役員などに関する事項	
8. 役職員に関する事項	
II. 事業の状況	10
1. 総会及び理事会	10
2. 委員会	11
3. 事業内容（公益目的事業）	14
3. 1 ファシリティマネジメントに関する資格認定事業	
3. 1. 1 認定ファシリティマネジャー資格試験	
3. 1. 2 認定ファシリティマネジャー資格登録	
3. 1. 3 認定ファシリティマネジャー資格更新登録	
3. 2 ファシリティマネジメントに関する教育研修事業 及び通信教育事業	
3. 2. 1 実現すべき教育研修事業の整理、計画	
3. 2. 2 初級ファシリティマネジメントスクールの実施	
3. 2. 3 ウィークリーセミナー	
3. 2. 4 専門分野別特別セミナー	
3. 2. 5 特別セミナー（新刊本等発刊セミナー等）	
3. 2. 6 ファシリティマネジメントフォーラム（日本ファシリティマネジメント大会）でのセミナー	
3. 2. 7 通信教育等制度の再整備	
3. 3 ファシリティマネジメントに関する表彰事業	
3. 4 ファシリティマネジメントに関する調査研究事業	
3. 4. 1 調査研究部会	
3. 4. 2 海外ファシリティマネジメント視察調査団	

3. 5 ファシリティマネジメントに関する I S O 関連事業  
及び日本産業規格 ( J I S ) 関連事業

3. 6 ファシリティマネジメントに関する広報事業

3. 6. 1 機関誌「 J F M A ジャーナル」の発行

3. 6. 2 W e b 版「 J F M A ジャーナル・ O N L I N E 」の運用・展開

3. 6. 3 ホームページの運用・見直し

3. 6. 4 メールマガジンの定期的な発行

3. 6. 5 マスメディア、その他ネットワークの活用

3. 6. 6 ファシリティマネジメントフォーラム 2025 の広報活動

3. 7 ファシリティマネジメントに関する交流事業

3. 8 ファシリティマネジメントに関するフォーラム

及びコンテスト等関連事業

3. 9 その他

4. 事業内容 (その他事業 : 相互扶助事業)

2 1

《 2024 年度 決算報告 》

2 2

1. 決算報告書

2. 監査報告書

# I. 法人の概況

## 1. 設立年月日

1996年9月25日（旧社団法人日本ファシリティマネジメント推進協会）  
2012年1月4日（公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会）

## 2. 定款に定める目的

本協会は、企業、団体等が保有又は使用する全施設資産及びそれらの利用環境を経営戦略的視点から総合的かつ統括的に企画、管理、活用する経営活動（以下「ファシリティマネジメント」という。）に関連する多様な活動分野の英知を結集して、ファシリティマネジメントの普及定着に関する事業を行うことにより、安全、安心、快適かつ機能的な施設資産の形成と活用を推進し、もって、良好な社会資本の整備及び地球環境の保全並びにわが国経済の健全な発展に寄与することを目的とする。

## 3. 定款に定める事業内容

- (1) ファシリティマネジメントに関する資格認定事業
- (2) ファシリティマネジメントに関する教育研修事業及び通信教育事業
- (3) ファシリティマネジメントに関する表彰事業
- (4) ファシリティマネジメントに関する調査研究事業
- (5) ファシリティマネジメントに関する ISO 関連事業及び日本産業規格（JIS）関連事業
- (6) ファシリティマネジメントに関する広報事業
- (7) ファシリティマネジメントに関する交流事業
- (8) ファシリティマネジメントに関するフォーラム及びコンテスト等関連事業
- (9) その他、本協会の目的を達成するために必要な事業

## 4. 所管官庁に関する事項

内閣府

## 5. 会員の状況

2024年度の会員移動状況は次のとおりである。

会員種別	2024年 3月31日 ①	入会 ②	退会 ③	差引 ②-③	2025年 3月31日現在 ①+②-③
法人・団体正会員	182	7	4	3	185
法人・団体準会員	19	2	2	0	19
小計	201	9	6	3	204
公共特別会員	274	4	0	4	278
合計	475	13	6	7	482
個人正会員	18	0	2	▲2	16
個人準会員	791	55	49	6	797
合計	809	55	51	4	813
総合計	1,284	68	57	11	1,295

## 6. 主たる事務所

所在地：東京都中央区日本橋浜町2-13-6 浜町ビル6階

## 7. 役員などに関する事項

公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会 役員（理事・監事）一覧		
2024年12月27日現在		
役員	氏名	現職
代表理事 (会長)	米倉 誠一郎	公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会
理事 (副会長)	濱田 和成	イオンディライト株式会社 代表取締役社長 兼 社長執行役員グループC.F.O
	辻上 広志	NTTアーバンソリューションズ株式会社 代表取締役社長 社長執行役員
	土屋 弘志	大成建設株式会社 副社長執行役員 営業総本部長
	山代 裕彦	日本郵政株式会社 専務執行役員
	川端 良三	三菱地所株式会社 代表執行役員 執行役員専務
	森 浩生	森ビル株式会社 取締役副社長執行役員
専務理事	成田 一郎	公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会
常務理事	村尾 幸彦	公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会
理事	品田 潤生	株式会社イトーキ 取締役常務執行役員 企画本部長
	大久保 昇	株式会社内田洋行 代表取締役社長
理事	松原 和彦	株式会社NTTファシリティーズ 代表取締役社長
	小野島 一	株式会社大林組 執行役員技術研究所長 兼 技術本部副本部長
理事	中村 雅行	株式会社オカムラ 代表取締役 社長執行役員
	井田 卓造	鹿島建設株式会社 建築設計本部 技師長
理事	黒田 章裕	コクヨ株式会社 会長
	藤原 庸雅	JR東日本ビルテック株式会社 常務取締役
理事	藤本 裕之	清水建設株式会社 常務執行役員 設計本部長
	寺島 剛紀	大星ビル管理株式会社 代表取締役社長
理事	星 拓治	株式会社竹中工務店 FM本部長
	平地 稔	東急不動産株式会社 執行役員 都市事業ユニット 都市事業本部長
理事	長澤 泰	東京大学 名誉教授/工学院大学 名誉教授 一般財団法人ハビネスライフ財団 理事長
	八木 秀記	東京美装興業株式会社 代表取締役社長
理事	中谷 憲一郎	株式会社日建設計 執行役員 企画開発部門 PMグループ 代表
	小坂 幹	
理事	臼井 賢	日本メックス株式会社 代表取締役社長
	重綱 鉄哉	公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会
理事	竹森 邦彦	一般社団法人ニューオフィス推進協会 専務理事・事務局長
	似内 志朗	ファシリティデザインラボ 代表
理事	北尾 知道	プラス株式会社 常務取締役 ファニチャーカンパニープレジデント
	松成 和夫	プロコード・コンサルティング 代表
理事	板谷 敏正	プロパティデータバンク株式会社 代表取締役会長/ 早稲田大学創造理工学部 客員教授
	松岡 利昌	株式会社松岡総合研究所 代表取締役
理事	山上 拓也	三井不動産株式会社 ビルディング本部 法人営業統括二部長
	丸山 優子	株式会社山下PMC 代表取締役社長 社長執行役員
理事	白井 清広	公益社団法人ロングライフビル推進協会 専務理事
	穴水 孝	東京ガス不動産株式会社 取締役会長
監事	黒田 長裕	日比谷総合設備株式会社 相談役

注) 敬称略/記載順序: 役職理事、理事、監事の順、及び「所属企業・団体名」の50音順

理事36名 監事2名

## 8. 役職員に関する事項

20名 (2025年3月31日現在)

## II. 事業の状況

### 1. 総会及び理事会

#### 1. 1 総会

今期は、次のとおり開催し、すべての議案を決議した。

第1回 通常総会	日付	2024年6月20日(木)
	場所	公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会 6階会議室
	決議事項	1) 2023年度事業報告及び決算報告の件 (2023年4月1日～2024年3月31日) 2) 役員(理事)選任の件
	報告事項	1) 2024年度事業計画及び収支予算の件 (2024年4月1日～2025年3月31日)

#### 1. 2 理事会

今期は、次のとおり開催し、すべての議案を決議した。

第1回 理事会	日付	2024年5月21日(火)
	開催方法	Zoomを使ったWeb会議 (発信元 JFMA 事務所 会議室)
	決議事項	1) 2023年度事業報告及び決算報告の件 (2023年4月1日～2024年3月31日) 2) 役員(理事)候補者選任の件 3) 第19回日本ファシリティマネジメント大賞 審査委員選任の件
	報告事項	1) コンプライアンス活動状況報告 2) 会員入会・退会状況報告
第2回 理事会 (書面評決)	書面 評決日	2024年6月20日(木)
	決議事項	1) 役職理事(副会長選任の件)
	報告事項	1) 役員(副会長・理事)辞任の件
第3回 理事会	日付	2024年10月16日(木)
	場所	ロイヤルパークホテル 4階 瑠璃
	決議事項	1) 規程の制定及び改定の件 2) 第19回ファシリティマネジメント大賞 審査委員選任の件
	報告事項	1) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況 2) コンプライアンス活動状況 3) 特別研究員(フェロー)の再任について
第4回 理事会	日付	2025年3月18日(火)
	開催方法	Zoomを使ったWeb会議 (発信元 JFMA 事務所 会議室)
	決議事項	2025年度事業計画及び収支予算の件 (2025年4月1日～2026年3月31日)
	報告事項	代表理事及び業務執行理事の職務執行状況

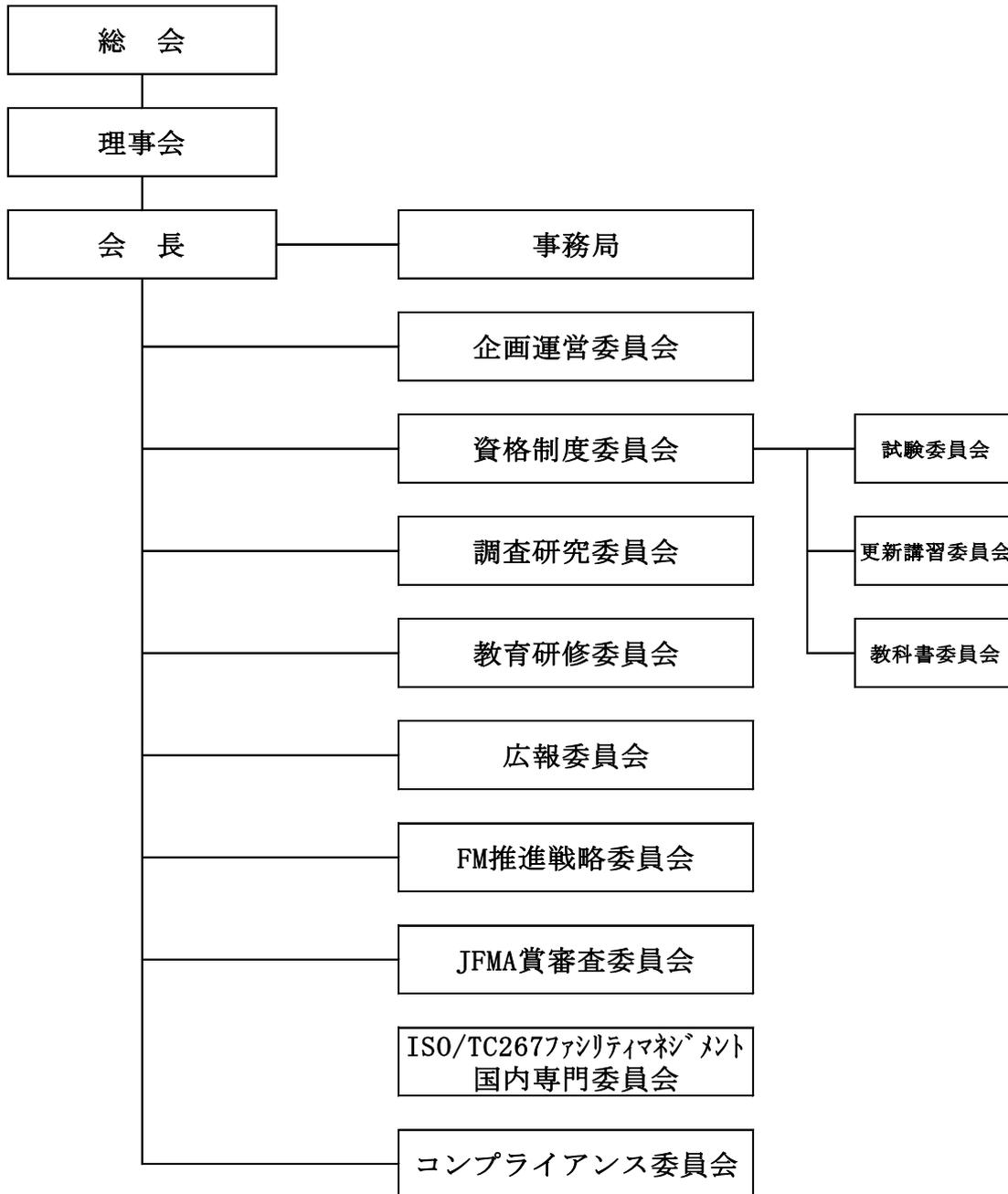
## 2. 委員会

今期は、下記の委員会のもとに事業活動を展開した。

企画運営委員会	役割	理事会機能を補完するもので、中長期事業計画の策定、単年度事業計画の立案、理事会上程事項の立案、会長諮問事項の審議・答申、各委員会の活動計画の調整、その他協会活動の企画運営業務			
	委員長	栗野 慎介	㈱NTT ファシリティーズ		
	副委員長	山田 裕之	㈱イトーキ		
	委員	他 27 名			
資格制度委員会	役割	ファシリティマネジメント（以下FMという。）資格制度全般の統括業務			
	委員長	吉田 倬郎	工学院大学名誉教授		
	副委員長	丹羽 範夫	一般財団法人 建築保全センター		
	委員	他 4 名			
	試験委員会	役割	資格試験の実施・運営に関する業務		
		委員長	丹羽 範夫	一般財団法人 建築保全センター	
		副委員長	関山 雄介	大成建設㈱	
		委員	他 14 名（委員）		
	更新講習委員会	役割	更新講習の実施・運営に関する業務		
		委員長	松岡 利昌	㈱松岡総合研究所	
		副委員長	塩川 完也	元㈱大手町ファーストスクエア	
		委員	他 8 名		
教科書委員会	役割	資格試験の教科書の作成、改訂に関する業務			
	委員長	松岡 利昌	㈱松岡総合研究所		
	委員	他 11 名			
調査研究委員会	役割	FMの活動に必要な知識・技術・手法の調査研究・開発業務。調査研究テーマの立案及び調査研究部会の企画・推進・調整業務			
	委員長	似内 志朗	ファシリティデザインラボ		
	副委員長	松成 和夫	プロコード・コンサルティング		
	委員	他 18 名			
教育研修委員会	役割	FMに関する人材の育成と普及のための教育研修事業の企画・提言及び支援業務			
	委員長	川村 裕			
	副委員長	松田 慎也	㈱NTT ファシリティーズ		
	委員	他 4 名			
広報委員会	役割	FM及びJFMAの活動の広報と広報戦略の企画・提言及び支援業務			
	委員長	齋藤 敦子	コクヨ㈱		
	副委員長	渡辺 光	㈱NSF エンゲージメント		
	委員	他 6 名			

FM 推進戦略委員会	役 割	FM推進に関する戦略展開の企画・提言及び支援業務	
	委 員 長	板 谷 敏 正	プロパティデータバンク(株)
	委 員	他9名	
日本ファシリティ マネジメント大賞 (JFMA賞) 審査委員会	役 割	FMに関する優れた業績をあげた者等を表彰する業務	
	委 員 長	北 川 正 恭	早稲田大学 名誉教授
	副 委 員 長	深 尾 精 一	首都大学東京 名誉教授
	委 員	他9名	
I S O / T C 267 ファシリティマネ ジメント国内専門 委員会	役 割	FMのI S O国際標準化のため、国内委員会を適時開催して、関連情報の共有を図るとともに、国内の意見をとりまとめ	
	委 員 長	長 澤 泰	東京大学名誉教授 工学院大学名誉教授 一般社団法人ビネスライフ財団理事長
	委 員	他17名	
コンプライアンス 委員会	役 割	コンプライアンス施策の検討と実施、及び実施状況のモニタリング業務。コンプライアンス違反事件についての分析・検討及び違反再発防止策等の策定業務。	
	委 員 長	成 田 一 郎	J F M A 専務理事
	委 員	他6名	

J F M A 組織図 (2024年度)



### 3. 事業内容（公益目的事業）

#### 3. 1 ファシリティマネジメントに関する資格認定事業

##### 3. 1. 1 認定ファシリティマネジャー資格試験

2021年度につづき、新型コロナウイルス感染防止を考慮し、集合方式からC B T方式に変更し、学科試験（2024年6月1日～6月9日の9日間開催）と論述試験（同年6月29日、3回開催、内1回だけ受験）の分離型で実施した。なお、合否発表は例年とおり同年9月2日（月）に行った。また、2024年度資格試験問題集を作成した。

※ファシリティマネジャー資格認定事業：当協会、一般社団法人ニューオフィス推進協会及び公益社団法人ロングライフビル推進協会の3団体で実施している。

2024年度 合格者数	410名
----------------	------

##### 3. 1. 2 認定ファシリティマネジャー資格登録

資格試験合格者の内、一定の実務経験保持者で申請のあった者に対し、「認定ファシリティマネジャー資格者（CFMJ）」の称号を付与し登録した。

2024年度 登録者数	359名（内、当年度合格の登録者295名/410名） 累計6,794名（2025年3月31日現在）
----------------	--

##### 3. 1. 3 認定ファシリティマネジャー資格更新登録

資格更新が決定した者に対し、資格登録証を発行した。また、2025年度更新登録に関する準備に着手した。

2024年度資格更 新登録者数	1,103名
--------------------	--------

#### 3. 2 ファシリティマネジメントに関する教育研修事業 及び通信教育事業

会員及び会員以外も対象とした、ファシリティマネジメントに関連する基礎から応用に関わる知識・技術・経験等を広く学習する機会を提供するため、教育研修事業年間計画の立案と、それに基づく各種セミナーを実施した。

##### 3. 2. 1 実現すべき教育研修事業の整理、計画

昨年度のセミナー実施・参加状況、アンケート結果等を検証し、参加者にとって有益で参加しやすいセミナーを効率良く運営していくための「セミナー等実施計画」を立案し、セミナー等の開催およびその実施管理をおこなった。

##### 3. 2. 2 初級ファシリティマネジメントスクールの実施

より一層のファシリティマネジメントの普及を図るため、ファシリティマネジメントの初心者（学生から経営者まで）を対象とし、以下の初級者向けファシリティマネジメントスクールをオンデマンド配信にて実施した。

###### (1) 超初級「ファシリティマネジメント入門」

ファシリティマネジメントの概要を分かりやすく、JFMA賞受賞事例紹介なども含めた講座を、令和6年7月1日～7月30日および、令和7年1月10日～1月31日に開催した。参加申込者数は合計65名。

###### (2) 初級ファシリティマネジメントスクール

新・第四の経営基盤をテキストとしファシリティマネジメントの基本をマスターする講座を、令和6年10月1日～10月31日に開催した。参加申込者数は66名。

### 3. 2. 3 ウィークリーセミナー

ファシリティマネジメント各分野に亘るタイムリーなテーマでのセミナー開催、見学会、YouTubeでの配信を行った。各セミナーの名称、概要は以下のとおり。

- (1) JFMA 賞応募募案内および JFMA 賞受賞講演（オンデマンド配信）  
JFMA 賞応募募案内と、2022 年～2024 年に開催されたファシリティマネジメントフォーラムにおける JFMA 賞受賞講演 22 件を、2024 年 5 月 14 日～6 月 3 日にオンデマンド配信。参加申込者数は 44 名。
- (2) JFMA 賞直近 3 年（16, 17, 18 回）（受賞現地見学会）  
第 18 回 JFMA 賞受賞見学会を会員に向け、6 月に大阪で 2 回開催。合計参加申込者数は 39 名。なお、優秀 FM 賞を受賞された西日本電信電話株式会社の共創施設 QUINTBRIDGE で米倉会長と仲名誉教授の講演・対談で「QUINTBRIDGE 共創\_大阪 FM セミナー\_地球を救うこれからの建物のマネジメントについて」を開催。参加者は約 50 名。
- (3) FM 進化論シンポジウム 2025 「生成 AI が拓く新しいファシリティマネジメント」  
（会場およびライブ配信によるハイブリッド開催）  
「生成 AI」が可能とする新しい FM について、講演、パネルディスカッション、総括で構成し開催。JFMA 会議室での会場開催、およびリモート同時配信にて 2025 年 1 月 14 日に開催。合計参加申込者数は 47 名。
- (4) 新春特別セミナー「新春恒例 オフィスの動向と展望」（ライブ配信）  
今後のオフィスの動向と展望について、「2027 年に向けた賃貸オフィス市場の動向と展望」および「ワークプレイスの新たな潮流」という 2 つのテーマで、1 月 15 日にライブ配信。参加申込者数は 23 名。
- (5) FORUM2025 「見どころガイド」(YouTube JFMA CHANNEL)  
FM とは何か、その言葉の意味を理解し、フォーラムへの参加へ誘導するため YouTube にて 2025 年 1 月より配信。
- (6) CFMJ 受験ガイドセミナー (YouTube JFMA CHANNEL)  
認定ファシリティマネジャー資格試験の受験のためのガイダンスを、YouTube にて 2 月より通年配信。
- (7) JFMA からのメッセージ (YouTube JFMA CHANNEL)  
FM について、JFMA の活動について、FM の JIS 規格について YouTube にて 2 月より通年配信。

### 3. 2. 4 専門分野別特別セミナー

広範なファシリティマネジメント専門分野別に、特別セミナーをオンライン配信にて開催した。各セミナーの名称、概要は以下のとおり。

- (1) 初級ファシリティマネジメント財務評価セミナー（オンデマンド配信）  
JFMA ファシリティマネジメント財務評価手法研究部会メンバーを講師陣とした財務評価手法に関するセミナーを、2024 年 4 月 18 日～5 月 29 日、2024 年 7 月 30 日～9 月 17 日、2024 年 11 月 12 日～2025 年 1 月 31 日の計 3 回、オンデマンドにて配信。合計参加申込者数は 89 名。
- (2) 調査研究部会公開セミナー — FM 初心者向け「秋の 18 講座」 —（オンデマンド配信）  
JFMA 調査研究部会の紹介動画と 18 の研究部会による、FM 初心者向けに FM の多様な分野の基礎知識に触れることができるセミナー動画を 2024 年 9 月 26 日～11 月 28 日にオンデマンド配信。参加申込者数は 150 名。

### 3. 2. 5 特別セミナー（新刊本等発刊セミナー等）

特別セミナーとして、JFMA 教育研修委員会およびスクール FM タスクフォースの企画、計画によるセミナーをオンライン配信にて開催した。各セミナーの名称、概要は以下の通り。

- (1) 誰でもできる組織 FM レベルの見える化 ～FM 業務実態調査シートの活用法～  
（オンデマンド配信）

JFMA 教育研修委員会メンバーを講師陣とし、委員会がまとめた「FM 業務実態調査シート」を活用した実践的かつ具体的な手法を学ぶことができるセミナーを、2024年7月9日～8月30日にオンデマンド配信。参加申込者数は55名。

(2) これからの学校を考える 新しい学びの環境づくりとは？ (オンデマンド配信)

学び、生活し、育ち、共に作り出す場として、学校がどのように進化しているのか、その最新事例の紹介及びタスクフォースメンバーと有識者による座談会を2024年7月23日～9月2日にオンデマンド配信。参加申込者数は288名。

### 3. 2. 6 ファシリティマネジメントフォーラム (日本ファシリティマネジメント大会) でのセミナー

ファシリティマネジメントフォーラム 2025 (第19回日本ファシリティマネジメント大会) では、令和7年2月1日～2月28日に、「FM ネクストステージ - サステナビリティ・地方創生・成長」をテーマとし、各種セミナーを発信した。2月1日～2月28日に基調講演、特別講演、企画講演、JFMA 賞受賞講演、スポンサー講演、研究部会講演、合計72講演をオンデマンド配信。

同期間、スポンサーステージでのさまざまなコンテンツの配信およびスポンサーライブセミナーを行った。2月25日の会場開催では会場講演、会長対談、また新企画として2月12日に若い世代に向けたカジュアルなライブイベント「ミライの働き方 みんなの座談会」を行った。オンデマンド配信期間の参加登録者数は2,083名、延べ視聴数は16,466視聴、スポンサーステージアクセス数は3,523、ライブセミナー参加登録者数は990名という結果であった。また、会場講演参加者は172名、ライブイベント参加者は38名であった。

### 3. 2. 7 通信教育等制度の再整備

ファシリティマネジメントに関する知識を、時間的・距離的な制約なく学習できる教育制度の再整備のため、各種セミナーにおいてオンラインによるライブ配信、オンデマンド配信、会場・オンラインでのハイブリッド開催などで開催し、運用上の課題の確認、視聴者の評価等について受講アンケート等により情報を収集した。

### 3. 3 ファシリティマネジメントに関する表彰事業

第19回日本ファシリティマネジメント大賞 (JFMA賞) の募集、審査および授賞式を以下のとおり実施した。

今回は例年通り応募期間を7月1日～8月31日として実施した。

公募による25件を審査対象として、審査委員10名による審議の結果、下記の授賞を決定した。

授賞式は、フォーラム会場講演の前に、審査委員長と審査委員5名に加え、多くの観客の参加により開催した。

《最優秀FM賞 (鶴澤賞)》 1件

- ・富士フィルムビジネスイノベーション株式会社/富士フィルムビジネスエキスパート株式会社  
経営の想いを具現化し進化しつづけるFMの取り組み

《優秀FM賞》 8件

- ・株式会社リクルート：  
働く場所の自律的な選択を推進するワークプレイスの具現化をコスト効率高く実現
- ・損害保険ジャパン株式会社：  
築50年ビルと挑むオフィス改革～培ったFMナレッジの全国展開
- ・ジョーンズ ラング ラサール株式会社：“Future of Work”の実験・実践と進化する運用
- ・第一生命保険株式会社：世紀を超えて続くオフィスのRe-Novation
- ・森トラスト株式会社：“目的地”となるオフィスを実現する“アジャイル”FM戦略
- ・一般社団法人前橋デザインコミッション：馬場川通りアーバンデザインプロジェクト
- ・京都府福知山市：未来の世代に責任をもつ循環型FM+PPP
- ・株式会社金沢彩の庭ホテル：ホテル事業におけるSPC実現に向けたFMの活用

《特別賞》 1件

- ・清水建設株式会社：未来へつなげるFMオフィス推進活動ー清水建設北陸支店新社屋ー

- 《技術賞》 2件
- ・株式会社アドダイス：AIによる省エネ制御 ～既存建造物の快適性を損なわずCO2削減～
  - ・株式会社日建設計/株式会社永坂産業/公益財団法人石橋財団  
ミュージアムタワー京橋 BIM活用型FMプラットフォームの構築

- 《功績賞》 2件
- ・斉藤孝治（名古屋大学大学院）：  
公共FMに資する固定資産台帳に基づく施設資産評価に関する研究（博士論文）
  - ・一般社団法人建設プロジェクト運営方式協議会：  
書籍『現代の建築プロジェクト・マネジメント 複雑化する課題を読み解く』

- 《奨励賞》 4件
- ・広島県福山市：福山市本庁舎施設整備におけるFMの取組
  - ・倉沢建設株式会社：中小企業経営に役立つFM
  - ・埼玉県坂戸市：坂戸市における学校施設の長寿命化について
  - ・NECファシリティーズ株式会社：FM-Base設立による施設管理員早期育成への取り組み

### 3.4 ファシリティマネジメントに関する調査研究事業

ファシリティマネジメントに関する専門分野毎に設置する「調査研究部会」の活動を行った。

#### 3.4.1 調査研究部会

合計18の調査研究部会が各々のメインテーマのもとに活動を行った。

##### (1) マネジメント研究分野

- ① FM戦略企画研究部会（登録者数：11名）  
「持続可能性を高める都市経営とそのFM戦略」を基本認識として持続可能なまちづくりの具体的な要件を明らかにすることをメインテーマとして、毎月1回部会を開催し、文献・資料等による事例研究や専門家等の講演を交えて、情報収集・意見交換・自主研究を行った。
- ② FMプロジェクトマネジメント研究部会（登録者数：28名）  
オフィスづくりの問題点等を部会で活発に議論し、オフィスを取り巻くトレンドに着眼した事例研究を重ねた。それらの研究成果とともに、不動産市況や人件費高騰による工事費上昇の移り変わり等プロジェクトを遂行していくうえで知っておくべき情報等を広く発信した。
- ③ リスクマネジメント研究部会（登録者数：22名）  
「アフターコロナにおける本部訓練」をメインテーマに、災害に関する情報交換、災害対応の模擬演習、会員企業の取組み状況を見学する等の活動を行った。これらの活動から得られた情報や知見に関しては、セミナー等を通じて発表を行った。
- ④ エネルギー環境保全マネジメント研究部会（登録者数：15名）  
環境経営に注目してエネルギー保全分野を取り巻く動向に関する調査を行った。また、関連する電源開発、企業活動、カーボンクレジット、木材利用に関する調査も実施し、これらを取りまとめた結果をフォーラムで発表した。
- ⑤ CREマネジメント研究部会（登録者数：26名）  
「CREマネジメントに関する最新事例、好事例の調査研究及びその普及」を活動計画に掲げ、戦略的なCRE（企業不動産）のマネジメント手法についての可視化や体系化について情報交換を実施した。また、具体的な事例を学ぶことを目的として見学会等を開催した。
- ⑥ 人と場へのFM投資価値研究部会（登録者数：24名）  
FM投資の意義やウェルネス効果等を研究のメインテーマに掲げ、「人にフォーカスしたFMのあり方」とWEB3の概念、AI、DXツール等を活用した「今後のFMの姿」についての研究を実施した。
- ⑦ ところとからだのウェルビーイング研究部会（登録者数：19名）  
個人に加え、組織のウェルビーイングという観点からもファシリティマネジメントの戦略、計画、評価手法について研究を実施した。ウェルビーイングに関するISO25554の紹介、組織のウェルビーイングを定量評価する概念等の研究成果を発表した。

⑧インフラマネジメント研究部会（登録者数：26名）

官民連携を基本とするインフラマネジメント手法の導入の推進、インフラマネジャーの育成を目的とした活動を実施した。また、地方自治体「公共施設等総合管理計画」におけるハコモノとインフラとの融合および公会計との連動の研究を実施した。

(2) 施設事例研究分野

①キャンパスFM研究部会（登録者数：16名）

社会変化や新規法令類がもたらす大学への影響の調査や検討、キャンパスFMに関連する先進事例の視察、技術情報の収集等を目的として活動を行った。大学教授や文部科学省の担当者等の講演を開催し、学校関係者や学生達に対する情報発信も実施した。

②ヘルスケアFM研究部会（登録者数：20名）

医療・福祉・健康に関わる施設経営と運営の戦略を包括的に扱うヘルスケアFMの導入と普及をメインテーマとし、病院のDXやヘルスケア施設のBCP等の最新事例に対する研究や情報交換を実施した。

③公共施設FM研究部会（登録者数：99名）

公共FMの最新情報や動向を継続的に調査し、公共FMのあり方について研究することを目標に掲げ、建設保全センター主催の会議における部会活動のPRや他の研究部会との情報交換等を実施した。

④ユニバーサルデザイン研究部会（登録者数：9名）

部会員各自が関わっているユニバーサルデザインに関連した業務や執筆等の活動（建築計画、地域行政、ビルマネジメント、コンサルティング、編集、調査研究、WELL、ESG/SDGs、健康経営など）を相互支援し、情報と経験を共有した。

(3) 固有技術研究分野

①運営維持手法研究部会（登録者数：16名）

運営維持の視点で新たなワークプレイス（設備以外の物品管理と運用等）のあり方についての研究を実施した。また、これまでの活動を通じて得られた成果をフォーラム等で発表した。

②品質評価手法研究部会（登録者数：18名）

能登半島地震の発生に伴い、品質評価項目のうち「心理配慮性」を中心に検討をすすめた。検討にあたっては、海外の避難所の事例、企業（サッポロビール）の取組み、被災者からの聞き取り等を参考にした。

③FM財務評価手法研究部会（登録者数：12名）

FM財務評価の普及をメインテーマに掲げ、「FM財務評価ハンドブック」を使った財務評価セミナーの実施や財務関連情報の収集や研究を行った。

④オフィス・ワークプレイスの知的生産性研究部会（登録者数：19名）

時代とともに変化する働き方をとらえながら、働く人と組織の視点で働きやすさとその結果として生み出される知的生産性についての研究をテーマとして活動を行った。海外の知見を共有する、学会等アカデミアと連携する等広く情報共有を行った。

⑤コンピュータ活用研究部会（登録者数：23名）

「FM領域に係わるICT新技術の調査」、「CAFMSシステムの活用事例の調査」、「ECO・LCC削減を可能にするICT新技術の調査」、「ロボット、AIの最新事例調査」の4つのテーマを掲げ、外部有識者を交えた勉強会や最先端の施設等の見学会を実施した。

⑥BIM・FM研究部会（登録者数：75名）

「FMのためのEIP（発注者情報要件）テンプレート集の制作」等を活動のテーマに掲げ、国土交通省主催の「建築BIM推進会議」等に参加し、FMでBIMが活用できる環境づくりの実現に向けた意見交換等を実施した。

(4) タスクフォースチーム

①スクールFMタスクフォース

・学び、生活し、育ち、共につくり出す場として、学校がどのように進化しているのか最新事例の紹介と有識者による座談会をオンデマンドにて配信した。

タイトル：「これからの学校を考える 新しい学びの環境づくりとは？」

配信期間：2024年7月23日～9月2日 参加申込者数：288名

## ②SDGs 研究タスクフォース

- ・北欧の国々が何故、サステナビリティとQOLなどの社会課題において先進的な取組が可能となったのか、都市・建築・ワークプレイスなどのファシリティマネジメント分野においても秀でてしているのか。そのヒントをコペンハーゲンと東京をつなぎ議論。その内容をファシリティマネジメントフォーラム 2025 にてオンデマンド配信した。  
タイトル：「北欧の国々から学ぶGXの姿」  
配信期間：2025年2月1日～2月28日

## ③インフラマネジメントタスクフォース

- ・若手人材の育成を目的として高等専門学校生を対象とした第5回「インフラマネジメントテクノロジーコンテスト」を実施し、全国から39チームが参加した。コンテストの概要とグランプリ・準グランプリ受賞チームの取組の紹介をファシリティマネジメントフォーラム 2025 にてオンデマンド配信した。  
タイトル：「インフラテクコンを通して考える地域インフラの将来」  
配信期間：2025年2月1日～2月28日

### 3. 4. 2 海外ファシリティマネジメント視察調査団

コロナ禍の影響で4年間実施していなかった海外FM視察調査団の派遣を再開し、2024年11月10日～16日に23名を派遣した。「環境とFM」をメインテーマに、労働生産性の高さや働き方、先進ホスピタリティなどについても参考となるオーストラリアの2大都市（シドニー、メルボルン）を訪問し、さまざまなFMの現場の視察・調査を行った。調査の結果は、報告書にとりまとめるとともに、報告会の開催、ファシリティマネジメントフォーラム 2025 やJFMAジャーナルでの報告を実施した。

### 3. 5 ファシリティマネジメントに関するISO関連事業 及び日本産業規格（JIS）関連事業

- ・2024年5月ISO/TC267国際全体会議（パナマ市で開催、対面とZOOM）に国際ISO委員と事務局の2名がZOOMで参加し、情報収集を行った。
- ・2024年6月EuroFM国際会議がロンドンで開催され、日本から国際ISO委員（EuroFMアンバサダー）が参加し、ISO関連を含む情報収集を行い、ジャフマジャーナルで報告した。
- ・2024年2月ISOが、MSSに対し、気候変動への配慮を含めることを目的とした追補（Amendment: Climate action changes）を発行し、ISO 41001Amendmentが発行された。このため、JIS Q 41001に対し、追補版を作成するためのJIS原案共同作成事業をJSAと締結し、ISO/TC267FM国内専門委員会を中心にした「JIS原案作成委員会」を1月に設立した。委員会での審議の結果承認され、2025年度中に「JIS Q 41001 追補版」が新たに発行される予定。
- ・2024年度から、CFMJ資格者が多く在籍する企業に対し、FMの基本とJIS Q 41001の経営手法を提供する「FM優良企業研修」を開始した。2024年度は、JIS Q 41001認証取得を目的とした企業と事業運営プロセスの習得を目的とした企業の2社から注文を請け、両社それぞれに研修を実施し、研修後に修了証を贈呈した。

### 3. 6 ファシリティマネジメントに関する広報事業

ファシリティマネジメントに関する広報を目的として、ホームページの運用、メールマガジンおよび機関誌の定期的な発行、新聞・雑誌などマスコミへの広告、さらにファシリティマネジメントフォーラムを活用した情報発信と広報活動を行った。またSNS（Facebook、Instagram、X（旧Twitter）、LinkedInなど）を開設して広く情報発信を行うと共に、大阪などでリアルの講演会も行った。

#### 3. 6. 1 機関誌「JFMAジャーナル」の発行

機関誌「JFMAジャーナル」は、読者の関心の高いテーマや執筆者を選定して、毎号新たな特集を組んで年4回、季刊誌として発行した。発行回数を検討すると共に、法人会員の社員を含

め、より多くの会員に読んでいただけるよう、PDF 版をホームページに掲載した。また、バックナンバーについても、ホームページに掲載するとともに、ジャーナル誌上でも案内を行った。

### 3. 6. 2 Web版「JFMAジャーナル・ONLINE」の運用・展開

紙媒体の機関誌「JFMA ジャーナル」の発行に加え、JFMA からの情報や会員情報などを Web 上にタイムリーに掲載する必要がある。そのため、現在の Web 版「JFMA ジャーナル・ONLINE」のあり方を見直し、「FM 玉手箱」などの FM 関連情報に加え、会員専用ページと融合して、会員特典などを盛り込んだ構成とし、JFMA および FM の魅力を一層広く周知できるよう再構築を行った。

### 3. 6. 3 ホームページの運用・見直し

見やすさに配慮したページ構成を目指し、適時適切な情報開示を行った。サイト内の膨大な情報を精査して内容を減らし、メンテナンスが十分でなかった部分から順次、FM の魅力がより伝わるよう、イメージ主体のレイアウト構成に変更を進めている。例えば、「FM とはなにか」を紹介するページでは、YouTube「JFMA CHANNEL」で配信中の動画をページ内に埋め込み、また FM を図式化した「卓上のリンゴ／重荷と風船」の資料を掲載して、FM を視覚的に理解しやすい構成に工夫した。

### 3. 6. 4 メールマガジンの定期的な発行

複数発信していた JFMA のメールマガジンを 1 種類に統一して、JFMA からの情報配信を明確にした。「新 JFMAIL(ジャフメール)」では、FM に関する総合情報に加えて、公共機関向けの内容も含めて月 1 回配信している。本文では情報タイトルと関連サイトの URL をシンプルなスタイルで構成し、JFMA サイトページへのリンクを通じて詳細情報を提供する仕組みとした。配信登録者に対してホスピタリティを重視したスタイルを目指し、コンテンツやデザインの改善を順次進めている。

### 3. 6. 5 マスメディア、その他広くネットワークを持つ方法の活用

ファシリティマネジメントの広報手段として、マスメディアや会員企業、認定ファシリティマネジャーのネットワークを積極的に活用し、協力を仰いだ。マスメディアにはプレスリリースを配信して、情報を伝えた。YouTube などを活用し、JFMA の活動情報や FM 活用のメリット等について、幅広い世代層向けに分かりやすくカジュアルな表現にて発信し、FM への認知度を向上させた。さらに、新たに JFMA の公式 Facebook、Instagram、X (旧 Twitter)、LinkedIn を開設し、ファシリティマネジメントフォーラム 2025 の広報や JFMA 賞受賞者の紹介を行った。

### 3. 6. 6 「ファシリティマネジメントフォーラム 2025」の広報活動

ファシリティマネジメントフォーラム 2025 の認知度向上を図り、フォーラム参加者拡大のための活動を行った。従来から活用しているホームページ上の特設サイト、機関誌、メールマガジン、印刷物などに加え、フォーラムの Facebook ページのほか、新たに開設した JFMA の公式 Facebook、Instagram、X (旧 Twitter)、LinkedIn を活用し、参加促進、イベント後のお礼、アンケート回答のお願いなどを発信した。

## 3. 7 ファシリティマネジメントに関する交流事業

今期は、主として下記の交流を行った。

#### (1) ファシリティマネジメントフォーラム 2024 における交流

- ・グローバル FM サミットをビデオ・オン・デマンドで配信した。

IFMA 会長 (米国)、EuroFM 会長 (欧州) AFMA 副会長 (アフリカ・ボツワナ)、KFMA 副会長 (韓国) から、各国の FM 活動の現状についてプレゼンテーション動画を購入。日本から、EuroFM アンバサダー (JFMA 理事) により、日本の FM 活動の現状について動画を作成。以上のプレゼンテーション動画を 1 本にまとめ、ビデオ・オン・デマンドにより配信した。

#### (2) その他海外の FM 関連団体との交流 (ISO 関連を除く)

- ・韓国 KFMA 関係者のファシリティマネジメントフォーラム 2025 会場見学  
2025 年 2 月 25 日会場開催 (JFMA 賞授賞式)

### 3. 8 ファシリティマネジメントに関するフォーラム及びコンテスト等関連事業

ファシリティマネジメントフォーラム 2025 の実施結果概要は以下のとおり。

テーマ	: 「FM ネクストステージ - サステナビリティ・地方創生・成長」
日程	: オンデマンド配信 2025年2月1日(土)~2月28日(金)
	: 会場開催 2025年2月25日(火)
	: ライブイベント 2025年2月12日(水)
プログラム構成	: オンデマンド配信講演 72 講座
	: スポンサーライブセミナー 44 講座
	: スポンサーステージ 66 社
	: 会場開催 1 講座および講演者と会長による対談
	: ライブイベント 2 講座およびワークショップ
参加登録者数	: 2,083 名 (会場開催、ライブイベントを除く)
アクセス数	: オンデマンド配信講演 16,466
	: スポンサーステージ 3,523
	: スポンサーライブセミナー 990
会場開催参加者数	: 172 名
ライブイベント参加者数	: 38 名

また、ファシリティマネジメントフォーラムの参加者数拡大を目指し、新たに4種のSNSを活用して情報発信を行った。

### 3. 9 その他

報告事項なし

## 4. 事業内容 (その他事業: 相互扶助事業)

会員等相互の交流を図る事業として、下記の交流会を開催した。

- (1) 法人会員懇親会: 2024年10月17日(木) ロイヤルパークホテル  
法人会員企業代表者・関係者 120 余名が参加し、交流を行った。
- (2) ネットワーキングパーティ: 2025年2月25日(火) 御茶ノ水ソラシティホール  
ファシリティマネジメントフォーラムの会場開催として実施した。  
JFMA 賞受賞者・関係者、講演者、会員など計 200 余名が参加し、交流を行った。